

春期講習会の活用術

何を学ぶのか？目標設定の重要性

1) 受身から能動へ

春期講座をただ漫然と受けるだけではもったいない。この受講を通して、どの教科のどの単元を強化したいのかを明確にするだけで、その効果は大きく違います。

2) 教科ごとにニガテ単元を洗い出そう

別冊「春期講座 トラの巻」に春期講座の教科別単元表があります。その中から自分が特にニガテな単元を選び、チェックしましょう。それが春期講座の第一のターゲットです。

単元表にないときは、春期講座テキストにはない単元ということです。その場合は個別指導等を利用してニガテ単元を克服しましょう。

3) ニガテ単元を書きだそう

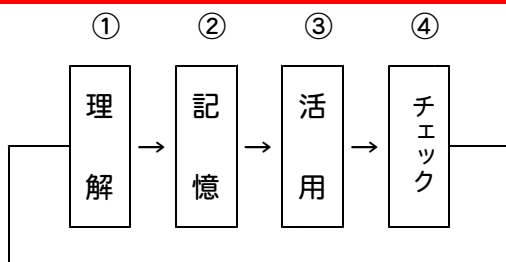
ニガテ単元をしばらく込んだら、教科毎に書き出して目につくところに貼りましょう。たとえば…

ニガテ単元をやっつけるぞ!

- 国語→(物語文)
 - できた できなかった
- 算数→(割合と比)
 - できた できなかった
 - (相似)
 - できた できなかった
- 理科→(水溶液)
 - できた できなかった
- 社会→(歴史…江戸時代)
 - できた できなかった

貼り出すことで、目標がより明確になります。また、できたかどうかを書くことで問題解決の有無が一目でわかります。ここで、できたということは「自力で問題が解けた」ということでなければなりません。

4) 4サイクル学習法を徹底しよう



- ① **理解**: 先生の話聴いて「わかったつもり」になる段階です。この段階では本当の理解ではありません。
- ② **記憶**: 「覚えよう」と意識して反復することです。「覚えよう」と意識しなければ、単なる「作業」で終わってしまいます。
- ③ **活用**: 自力で問題を解くことです。つぎに必要なことは○つけです。保護者など自分以外の人○つけをします。自力で解けたら「完全理解」。解けなかったら「不完全」です。
- ④ **チェック**: ×を○にする作業です。これができるかできないかで学力の差が生まれます。カードを作る(作り方はご指導します)。×をもう一度解く。等、具体的でなければなりません。

5) まとめテストを受けよう…今間違えるのは正解

テストは理解度評価のツールです。80点なら80%は理解しているが、20%は「不完全」であることを示しています。20点ならその逆であるに過ぎません。点にこだわることなく、×を○にする作業に徹しましょう。

保護者様へ…「あるべき論」の落とし穴

- 「あるべき論」とは、「こうあるべきだ」とか「こうであるはずだ」とゴールから出発する評価基準です。これでお子様を見てしまうと、せっかくの努力も「あたりまえ」になってしまい、本人は「報われない」気持ちから学習のモチベーションは下がります。
- 「今からどれだけ伸びたか論」へ発想の転換をお願いします。前より少しでも伸びたら、必ず「すごい」とほめてください。**お子様の栄養源は「ほめ言葉」です。**「ほめ言葉」をいっぱい浴びたお子様は太陽をたっぷり浴びた若芽のようにすくすくとたくましく育ってくれることでしょう。

大学受験 県立朝日・大安寺の躍進

- 国立大学入試の一次試験結果が発表され、東大は県立朝日が18名(現役9名)、県立大安寺中等が7名(現役5名)、県立天城が6名(現役5名)、県立操山が4名(現役3名)、岡山白陵が3名(現役1名)、倉敷青陵2名(現役0名)、県立笠岡・県立城東各1名という結果でした。
- 岡大医学部医学科も県立朝日が12名、岡山白陵が11名、県立操山・倉敷青陵・県立津山が2名と県立朝日と県立中高一貫校の躍進が顕著です。他の国公立医学部は岡白が堅調でした。